銀の皿

「祈りの力」

この話は私が 18 歳の時、バックスライドした後、教会に再び戻るようになった後のお話です。自分も含め、たくさんの中高生が教会に来るようになりました。同世代の魂の救いに重荷を持ち、祈り続けていた牧師の子供達による宣教の一つの実りでした。多い時は平日でも 30 人以上の中高生が教会に来て、おしゃべりしたり賛美したりしていました。ある時の事、その中の 20 名以上の子供達が青少年スプリングキャンプに行ってみたいと言い出しました。ほとんどが初めての参加で、信仰決心していない人達も多数いました。教会学校の先生たちはこの事に、驚き、とても喜びました。

私にとっては最後の中高生キャンプでした。なぜなら就職がすでに内定しており、その春から仕事することになっていたからです。私は仕事の研修の都合でキャンプは 2 日目の晩と 3 日目しか参加できませんでした。しかし自分が知った神様の恵みを参加する中高生にも知ってもらいたい。そのような思いから、教会の会堂で祈ることにしました。ある時の夕暮れ、お祈りするために会堂に行った時、座布団が床に敷きっぱなしでした。教会の最前列に座布団が 2 枚、しかしあたりには誰もいない‥、その座布団を方付けようとして、つかんだ時、なんと！まだ温もりが残っていました。「さっきまで K 君と G ちゃん、祈ってたんだな…」今ではそれぞれの地で働き学ばれている G 先生と K 先生。彼らも祈っていた事に励まされて、いよいよ熱く祈ったことを覚えています。またある時は時間を決めて一緒に祈りました。「みんながイエス様の事を知るように」心を一つにして祈り続けました。

そしてキャンプの日を迎え、2日目、私は教会学校の先生の車に乗せてもらい、キャンプ場へ向かいました。職場の研修中も上の空でキャンプの事が気になって仕方が無い。そんな中、キャンプ場に着いた時、K君から「やったよ銀ちゃん！」という第一声を聞きました。なんと参加したほとんどの中高生達がイエス様を受け入れると決心したのです。私はその報告だけで涙しました。キャンプ最終日に入り、証会の時でした。みんながイエス様に出会った証をしているのを見て、また涙しました。私達は祈りに答えられる神に出会い、そして喜びを分かち合ったのです。今では別々の遣わされた地で生活をしている3人ですが、今でもお互いの為に祈り、メールや電話等で信仰を励ましあっています。私達はあの時、祈りの力を体験したのです。そして今もその力を信じています。

私達がこの朝学んだことは、賛美には、そして祈りには力があるという事です。私達はかつての使徒たちのように兄弟姉妹を励ますものでありたいと願います。しかし他者を心に掛けるより自分の煩い事で心がいっぱいになり、ついに信仰生活でうなだれてしまうことがあります。しかし私達が忘れてはいけない事は、神の恵みはいつも私達に必要十分であるということです。それが又、祈りと賛美の力になっていきます。主はこの地上において祈りの民が起こされることを願われています。イエスの御名による祈りには力があります。共に祈り支えあい主を見上げ続ける者となってまいりましょう。

第IIコリント

6:2 神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。